令和８年度第１回新鳥取県史編さん会議政治部会議事録（概要）

日時：令和８年７月２日（木）１３：００～１５：００
会場：鳥取県立公文書館２階会議室
参加者：岸本部会長、塩沢委員、瀬畑委員、伊藤委員、大川委員
西村館長、髙橋専門員、長澤専門員、石賀主事

１　開会　各委員から自己紹介

２　協議（１）　執筆項目について協議資料１－１に基づいて説明（岸本部会長）
質疑・意見
（１）議会について
塩沢委員）議会についても１つ節を立てて捉えるような形でもいいと思う。まとめる形なら、時期ごとの会派の変遷を挙げ、その時の重要課題に議会がどう判断してきたかを記述する。
西村館長）昭和 55 年頃までの議会の動きは『鳥取県議会史』にある。会派の構成の移り変わりについては別途節立てをするのもありと感じる。
岸本部会長）資料をざっと見て、こんな感じで記述できるという見通しがついたところで修正してもいいと思う。
（２）巡幸について
瀬畑委員）他県の県史では巡幸についての記述はその都度２ページくらいで、節立てして書くのは新鮮。まとめた方が書きやすい。
西村館長）１つの節にして、戦後の象徴天皇制の流れ、県民の受け止めと巡幸の変化を含めて書いていただきたい。
瀬畑委員）県民と皇室との距離感や、代替わりで県民にどう対応していたかなどいろいろな話が書けると思う。
（３）災害について
伊藤委員）災害は現象だけでなく政治・経済・社会への影響についても繋げていきたい。三八豪雪は過疎化に止めを刺した面がある。千代川の水害によって政治的な動きがすごく出てくる。
岸本部会長）御意見の通り、災害については社会分野の記述を参照していただいた上で、地域や行政への影響の部分をむしろ書いていただきたい。
（４）全県公園化について
伊藤委員）戦後最初の民選知事である西尾愛治知事が観光に力を入れていて、既に全県公園という言葉が出てくる。全県公園化構想を掲げた西尾邑次知事は焼き直し的なところがある。
岸本部会長）そのあたりはぜひ書いていただきたい。
（５）県史全体の構成について
大川委員）他の３分野が大体ジャンル別に整理されているのに対して、政治分野の構成は縦割りの部分と横割りが混ざっているように感じる。政治分野もジャンル別のほうが統

一感が出るのではないか。
岸本部会長）他の県史では分野別は少ない。戦後の民主化から高度経済成長を経て現代に至る流れをどこも踏襲していて、そこに政治も経済も文化もくっつけている。
伊藤委員）読者から見ると、知事で分かれている方がわかりやすい。前の県史の近代編では、明治のある時期は各知事が並んでいてちょっと誤魔化しみたいなところがあるが、わかりやすくはある。読み手を意識したほうがよいと思う。
岸本部会長）知事ごとにある程度分けていくと、特色は出ると思われる。
（６）統計資料の取り扱いについて
大川委員）統計については、各ジャンルでコラムか前座の形で、時系列のデータで変化や傾向を示すのがいいと思う。統計ばかりが出る章や節があってもあまり良くない。
岸本部会長）やはり人口については、鳥取県最大の問題でもあるので、どこかでまとめて書いた方がよい。人口に関わる部分をどこに位置づけるか、また話をさせていただきたい。統計については言われるようにコラム的に書いたほうがすごく効果的だと感じる。
大川委員）記述の部分で個別の深い話をされると思うので、そこにデータでサーベイがあるようなのが便利なのかなという気がする。
岸本部会長）各部会で依頼をかけることは可能か？
西村館長）可能。どういう統計項目があってどこに配置していくかという話になると思うので。
大川委員）「この分野のこの章で扱えそうなデータが残っていないか」と言っていただけたら、探してみて、時系列に沿って概説することはできると思う。
（７）政党の地方組織について
塩沢委員）自民党鳥取県連など、政党の地方組織の話は県史の内容としてふさわしいか？
西村館長）いいと思う。多分これまでは取り上げられてこなかったが、新聞資料で見ていくのか？
塩沢委員）新聞や県連が持っている資料。
（８）他分野との関係について
瀬畑委員）他の県史を見ても、分野は完全に縦割りになっていて横をつないでいるのは政治であるように思う。むしろ政治はそれを意識したほうがよいのではないか。他の県史では、結局政治で通史がわかり、他の部分はジャンル別という建てつけになっているという感想を持っている。
岸本部会長）他の部会にも情報共有できるような形をとったほうがいいかもしれない。
西村館長）各分野が分野別の通史にならざるを得ないところはある。政治の流れを意識した書きぶりにしてくださいというお願いの仕方になるかもしれない。
岸本部会長）資料編を作った西村館長と佐々木文化部会長は全体が見えていると思うので、部会長で相談して、縦割りでない県史を作っていきたい。

３　協議（２）１　執筆の進め方について協議資料２－１に基づいて説明（事務局）
質疑・意見
（１）原稿料について

伊藤委員）原稿料は県職員でも貰える？
西村館長）貰える。

４　協議（２）２　県史編さんの柱について協議資料２－２に基づいて説明（西村館長）
質疑・意見
（１）柱「ふるさととの葛藤」について
伊藤委員）「ふるさととの葛藤」には「県外転出者を含む」という言葉がある。西尾愛治知事の時のブラジル移民や、石破二朗知事の時の釧路市と鳥取市の姉妹都市縁組など、外の応援団のことは書きたいと思う。
岸本部会長）ぜひお願いしたい。

５　協議（３）　資料調査について、提供可能な資料・調査方法・『県史研究』・クラウドについて説明（事務局）
質疑・意見
（１）『県史研究』電子版について
伊藤委員）『県史研究』は査読あり？
西村館長）部会長には読んでもらおうと思う。
（２）県史本体の書きぶりについて
伊藤委員）編さん物だからある程度筆致は揃えてほしいと思う。最終的な編さんの責任は事務局にあり、原稿を手直しすると執筆者との関係が難しくなることも考えられるので、ある程度腹入れしておいてほしい。
西村館長）過去には他の県史でいろいろな問題が起こっているようだが、自治体史を執筆依頼するということで、こちらから編集をお願いすることもあると思う。そのための期間を最終年度の１年間取っている。事務局でも他の部会で先生方にお願いしたいと思う。
（３）資料の紙での送付
伊藤委員）クラウドは便利だが、資料を紙で送ってほしいという依頼は可能か？
事務局・高橋）「紙の方が仕事が進む」という先生方には対応させていただく。

６　協議（４）その他　今後のスケジュール（１月：部会、２月：編さん会議、３月：編さん委員会）について説明（事務局）
※特に意見なし

７　閉会